

癒し

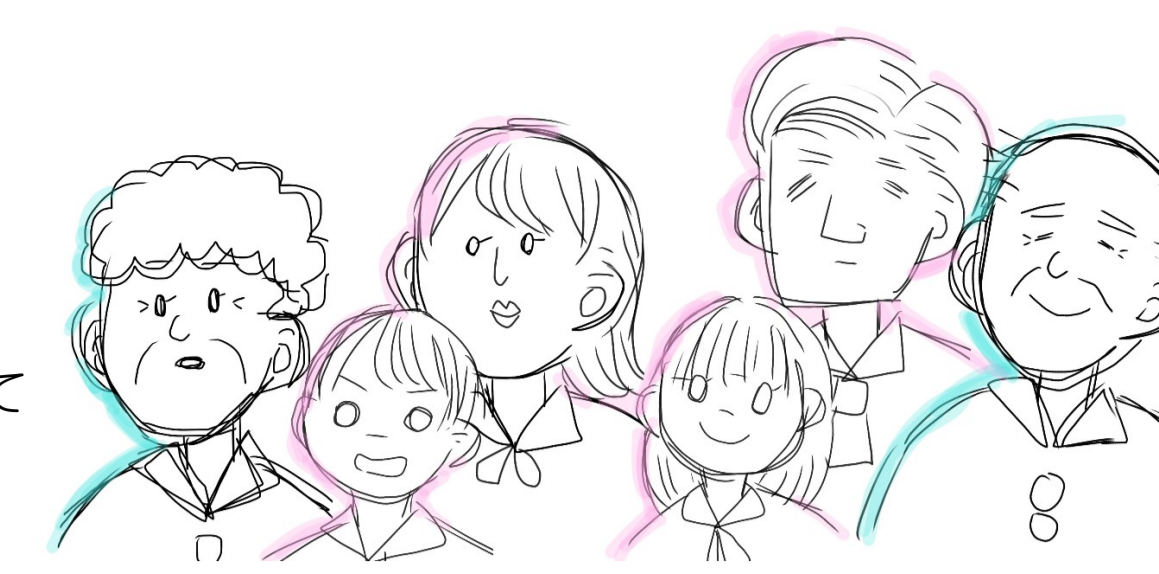
震災後、生活面の復興はもちろん、個人の心を癒しつつ、人と人との輪を大切にしたい。なおかつ、ひとりの時間も『たいせつ』にノスタルジーを感じさせる癒しの2世帯復興住宅



▼家族構成

祖父母
夫婦、子供2人の 2世帯家族

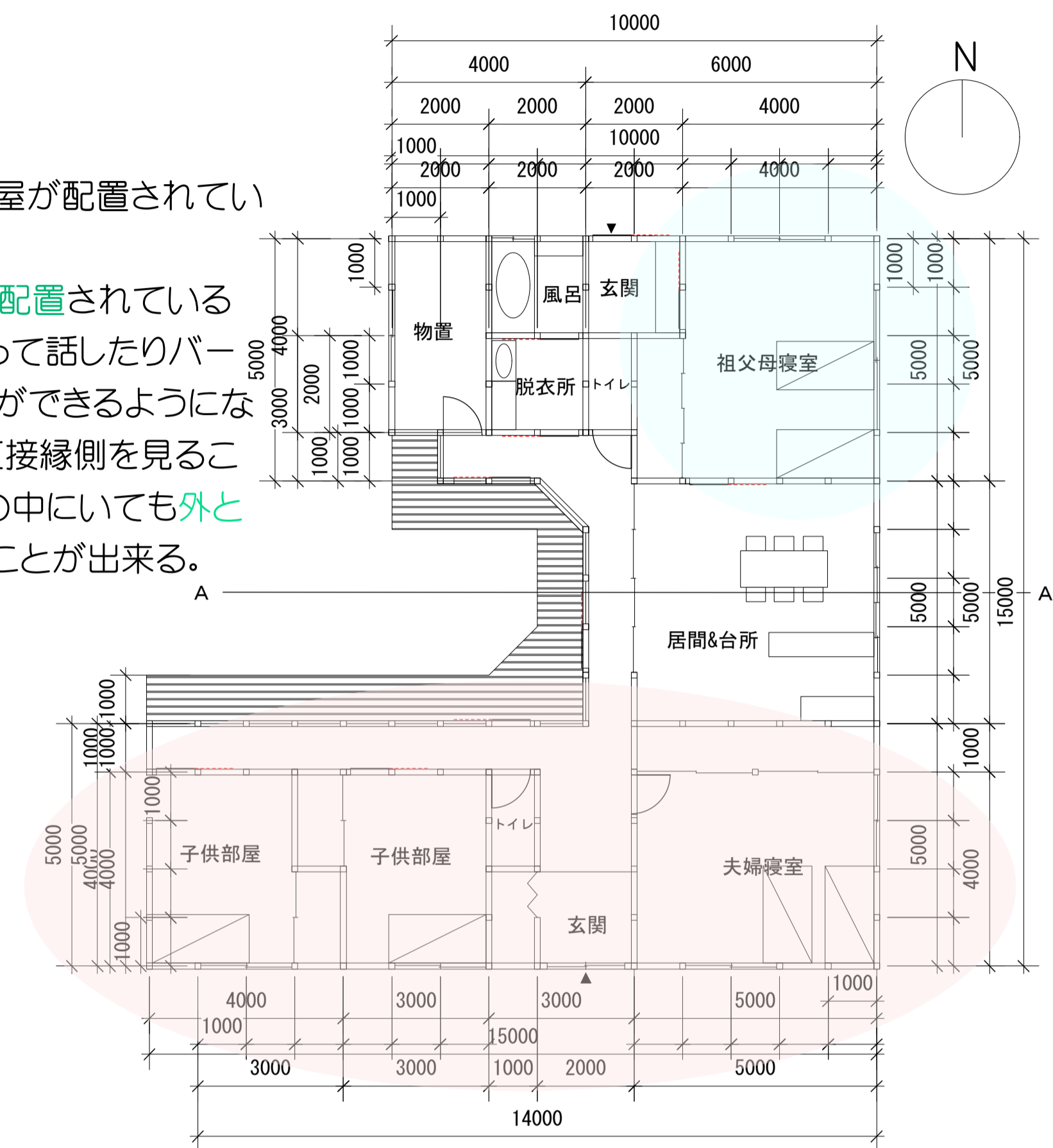
別々に暮らしていたが震災があったことによって祖父母の老後も考え、一緒に暮らし始める。



▼平面図

◎中庭

縁側を囲むように部屋が配置されている。縁側は地域に向けて配置されているので、地域の人と座って話したりバーベキューなどの交流ができるようになっている。居間から直接縁側を見ることができるので、家の中においても外とのつながりを感じることが出来る。



平面図1:100

◎部屋の分割

祖父母部屋の近くには水回りが配置されており、玄関も直接部屋につながっている。将来、祖父母の体が不自由になったとしても生活しやすいように配置されている。二世帯住宅ではあるが、夫婦とその子供たち、祖父母の部屋は共通スペースを挟んで分割されており、お互いに一緒に過ごせるような空間とお互いに意識しないで過ごせるような空間を作り上げている

▼敷地



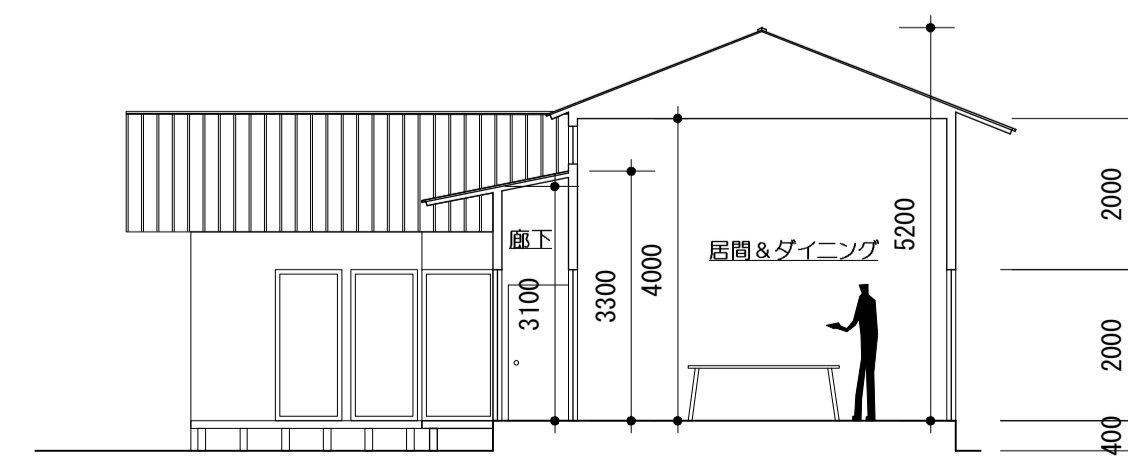
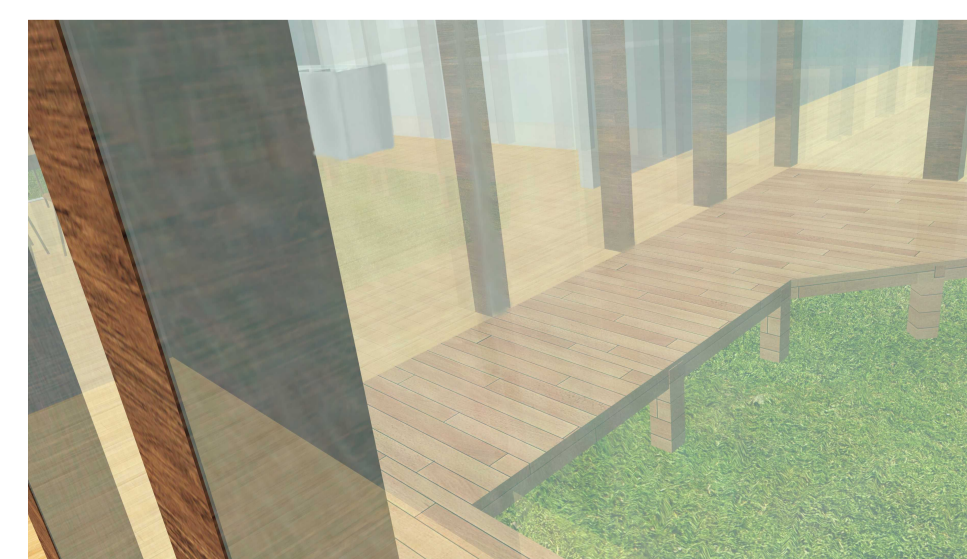
敷地:鳥取県湯梨浜町大字宮内

観光スポットやサイクリングロードのある東郷湖周辺にある集落。山に囲まれている。すでにコミュニティができているため、震災後の助け合いがしやすく安心できる。ただし、コミュニティに入りやすくする仕組みが必要だと考えられる。

▼断面図

居間と台所から廊下、縁側までをひとつづきの空間とすることで、中庭へ開けた空間を目指した。

居間と台所、祖父母の部屋、夫婦部屋の天井を高くし、屋根に変化を持たせることで外部から見たときの解放感を持たせる。高くした面から開口部を設ける事で光を取り込んだ。



断面図1:100

